

Black Lives Matter 関連

- 1) 1991 ロドニー・キングとロス暴動、仮釈放中にスピード違反→逃走&追跡、警官暴行で重傷、死者63名、逮捕1.2万人
- 2) 2012 トレイボン・マーティン (17歳) 射殺、サンフォードFla. 窃盗容疑、加害者:ジーマン(自警団員)は鼻部骨折、後頭部裂傷。正当防衛が認められ無罪。
- 3) 2014.7.17 エリック・ガーナー、絞め技で窒息死(?)。スタテンアイランドNY. 大男(1.9m, 160Kg)、煙草密売、仮釈放中、無免許運転、マリファナ所持、30回以上逮捕歴。警官は2019年解雇。590万ドルで妻と訴訟外和解。
- 4) 2014.8.9 マイケル・ブラウン (18歳)、白人警官により射殺、**ファーガソン** Mo. 葉巻窃盗。警察官を殴り銃を奪おうとする。10発発砲。目撃者は仲間。大陪審不起訴。
- 5) 2020.3.13 ブリオナ・テイラー、射殺。ルイビルKy. 警察が誤って踏み込み友人が発砲。1200万ドルで和解。
- 6) 2020.5.25 ジョージ・フロイド、ミネアポリス近郊、加害者:デレク・ショーヴィン、膝で圧迫死、「息ができない」、偽札使用、見破られた後も商品を返さず。2007年武装強盗、5年懲役後。
- 7) 2020.8.23 ジェイコブ・ブレイク、ケノーシャWis. 7回銃撃、重傷、DVで逮捕状あり。女性より保護の訴えがあり出動。ホルドアップに従わず(?), 車にナイフ(?)。

・主張

「丸腰の市民を警官が射殺」、racismの過去、しかし

①黒人の命をもっとも守っている政府機関は警察。

②police racism よりも black-on-black crime の方がずっと大きな問題。

・黒人は13%だが、白人とヒスパニック(W&H)を足した以上、6000人/年が殺人の被害者に(率にして6倍)。LAでは20-24歳の黒人は平均の20-30倍。加害者も主に黒人。14-17歳の黒人の殺人率はW&Hティーンの10倍。全年齢でBはWの11倍。

・2015年に警官が殺したのは987(W:493, B:258)。それぞれ殺人犠牲者のW&Hで12%、Bで4%。

・75大地区で黒人容疑者は、強盗の62%、殺人の57%。人口比は15%。警官殺しの40%がB。

・「人口比からの乖離→人種差別」は誤り。NYCでは、B(23%)は発砲の75%、強盗の70%。W(33%)は発砲の2%以下。警官が発砲で呼ばれる minority neighborhoodへ。

容疑者も「B」が多い。→Bを捜査(犯罪事実)。Bを保護。

・Proactive Policing (犯罪が起きる確率の高い場所に焦点をしばって積極的に職務質問など)をすることで犯罪を未然防止、地区の責任制: Compstat)の結果、NYCの殺人は2245件(1990)→333件(2014)。(危険地区に焦点を当てないと成績が上がらない)、data-driven policing。←この成果(安全性向上)がBLM運動で危機に。

・過程の一部のみを動画化、警官の責任追及、anti-cop campaignの結果、犯罪多発地帯での微罪・虞犯取締などが減少。2015, 2016 犯罪急増:

“Ferguson effect”と診断→論争へ(incl. Comey vs. Obama) anti-cop Leftの前提=人種に基づく刑事手続き中傷(→2016 Trump当選の一要素)